



ライブ後に曾我部さんと訪れたのは、オークス通りの中古レコード店『Sweet Nuthin' Records』と並木坂の古本・中古レコードの店『汽水社』。時間のゆるす限り、レコードを掘り、本を探した。そして最後はノンアルコールビールを飲みながら、ざっくばらんにアートについて語ってくれた、2021年の春の夜。

## 通りすがりの風を アートに変える魔法

—— たくさん買われましたね！

曾我部 『Sweet Nuthin' Records』ではどうかおさんの『BOOKING OFFICE』やパティ・スミスの『ピローズ・ザ・ナイト』などなど。実はライブ前にものぞきにいったので、ほかにもたっぶり買ってます(笑)。『汽水社』では木戸やすひろさんの『KID』、布施明さんの『サバイバル』、古本だとリチャード・ブローティガンの『東京モンタナ急行』…これ絶版になってたやつでほしかったやつなんですよ！ カバーイラストは永井博さんですね。

—— 『A LONG VACATION』の。

曾我部 そうそう。ちょっと値段はしましたが、まあ適正価格ですね。しょうもないものを10冊買うより、全然いい(笑)。“本物の文化”って、やっぱり高いんですね。もちろん今日買ったレコードも音源はyoutubeで聴けるんですけど、それでも物質を買って、もう変態ですよ(笑)。

—— 曾我部さん、ご自身の“レコード屋(PINK MOON RECORDS)のおやじさん”としての顔もあってらっしゃいますもんね(笑)。そして去年ソロで出された『Loveless Love』(※1)ですが、内容はもちろん官能的なアートワークが本当に美しく…とても印象的な1枚でした。こちらは新進気鋭の画家とのコラボとか。

曾我部 画家の榎本耕一さんという方の絵です。SNSで榎本さんの展覧会があることを知って、絵を見て、もうひと目惚れしちゃったんです。彼は天才ですね。ちなみに去年めちゃくちゃバズった『いいね！』(※2)のジャケットは、イタリア人イラスト

レーター・ルカさんによるもの。もともとは裏面のジャケットをお願いしたんだけど、いくつか送ってもらったなかに、この女の子がカメラを持っている絵があって。まさに『これいいね！』ってなって起用したんです。彼は大友克洋さんとか江口寿史さんの絵に影響を受けたみたいで、いわゆる海外の方からみた日本人というか。

—— めちゃくちゃ可愛いですよ〜！

曾我部 そしたらこのグラフィックTシャツが大ヒットしちゃって。正直、レコードより売れてない(笑)？ マネジャー レコードも売れていますよ！

—— (笑)。

曾我部 あ、そうだ。最近zineをつくったんですよ。これよかったです。

—— わあ、zineだ！

曾我部 僕去年中古レコード屋さんをはじめたんですが、ここでしか手に入らないグッズが何かほしいなと思って。zineは以前つくったことがあって、その第2弾という感じですね。

—— 絵も、写真も、詩も曾我部さんが？

曾我部 そう。絵もたまに趣味で描いてたんで、たまったものを。外国の雑誌みたいなチープな感じにしたかったので、あえて紙も一番安いやつにした。

—— すごくいいですね。『Loveless Love』『いいね！』のLPもこのzineも本当に愛らしいグラフィックで、部屋にぼつんと置くだけで、感情が

あふれてしまいうるんですけど…(筆者は曾我部さんの大ファン)。ちなみに、曾我部さんはどんな家に住んでらっしゃるんですか？

曾我部 うちの戸建てで、もう12年くらい経つのかな。2階建てで地下があって。でも実は僕自身は生活にアートを取り入れるってことをそこまで意識してなくて(笑)。ごめんなさい、趣旨からはちょっと外れちゃうかもしれないんですけど。

ただ香りにはこだわってるかな。香りの体験も、ある意味“嗅ぐ”アートといえるかもしれないですね。あとは…奈良美智さんの絵があるなあ。昔、自分が描いた絵と交換したんです。『24時』っていうアルバムのジャケットなんですけど。「曾我部くん、僕の絵と交換しようよ〜」って言われて。

—— それは貴重！なるほど。アーティストの方は人生そのものがアートというか、そういう意識かもしれないですね。

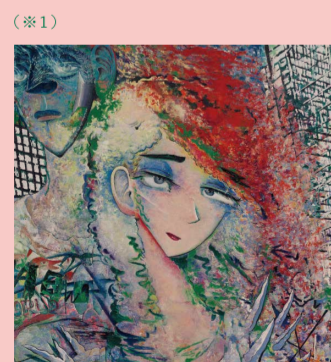
曾我部 うん。たとえば洗濯物がたまったカゴなんかも、アーティストにとってはアートのようなものですよ。あとは…日差しとか？ 僕、風の抜けてめっちゃめちゃ大事だと思って。

—— 風通してことですか？

曾我部 そう。家も店も。風の流れや光の入り方を自らとらえるって本当に大事で。うちは屋上を緑化しているので、地下から入ってくる風を入れると、今くらいの季節が一番気持ちいいんですよ。犬も屋上の芝生でリラックスしてる(笑)。色とか光、香り…そういう根本的な部分を生活において大事にしていますね。僕らって結局重力に支配されて生きている以上、本当の意味で自由にはなれないと思うんです。それをやわらげて、すこし生きるのを楽にしてくれるのが、風とか光の存在じゃないかなって。

—— 自分からそれをつかみにいくというか。

曾我部 そうですね。そうだな、あと絵を飾るのもいいけど、自分で描いてみるのもいいです。僕も自分が最近描いた絵くらいはすこし飾ってるけど、ほとんど人にあげちゃうことが多いかな。抽象画はテクニックはいらないし、描けばそのひとの絵になるというか。もちろんそれが難しいんだけど(笑)。でもそれを自分の部屋に飾ってたのしむって、なんかすごくいいと思う。



『Loveless Love』(2020年)  
カヴァー・アートは「ギザギザハート」と題された榎本耕一の絵。演奏・録音・ミックスまで大半を曾我部恵一ひとりで行ったアルバムで、長さもスタイルもバラバラな14曲が収録。深く内省的でありながら、誰も取りこぼさないポジティブなメッセージを感じられる1枚。



『いいね！』(2020年)  
デビューアルバム『若者たち』を彷彿とさせる、みずみずしさと初々しさ。ふたたびファーストアルバムをつくる気持ちでつくられたという、サニーデイ・サービスのひとつの到達点。タイトルの『いいね！』は、シンプルで前向きなイメージを重ね合わせたもの。



曾我部 恵一  
1971年生まれ。1990年代からサニーデイ・サービスのボーカリスト、ギタリストとして活動始める。サニーデイ・サービスとして『いいね！』を2020年5月22日に、ソロで『Loveless Love』を12月25日にリリース。昨年は北沢に「カレーの店・八月」、同じビルの3Fに中古レコード店『PINK MOON RECORDS』をオープンさせた。  
(撮影協力) Sweet Nuthin' Records (熊本市中央区城東町5-57) / 汽水社 (熊本市中央区城東町5-37 ビューアズ夢大ビル)

Art on a sunny day.



KEIICHI SOKABE INTERVIEW



サニーデイ・サービス  
曾我部 恵一

You can't stop the Art.

手がわりのあるものはいいね。



「さあ出ておいで きみのこと待ってたんだ」(baby blue)。

未だ長い混沌をさまよう世界へ、ささやかな祝福のようなギターフレーズがかき鳴らされた瞬間。それは鮮烈な風となって、わたしたちの頬をかすった。新メンバーに大工原幹雄(Dr.)を迎えた新生サニーデイ・サービスとして初の熊本。昨年、2度の振替を経てやっと実現できたライブだった。力強さと優しさ、あたたかさがじわじわと体じゅうをめぐりゆく。

ずいぶんと、こんな夜を忘れていたように思う。